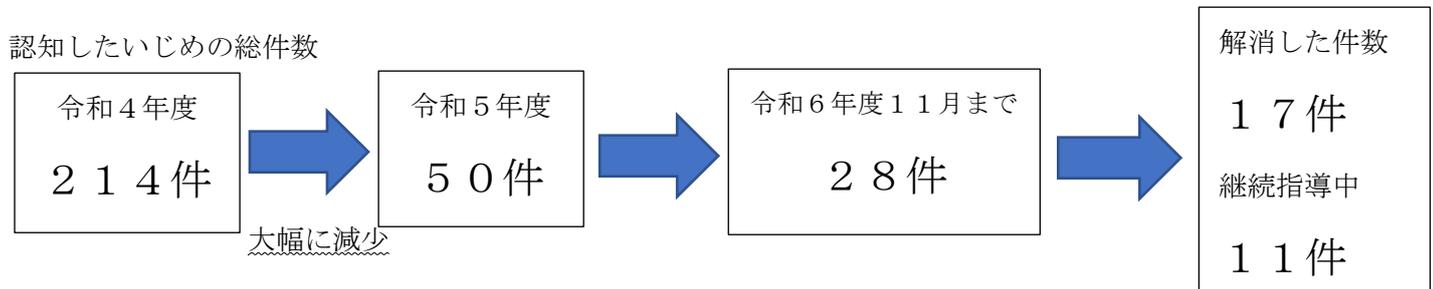


**いじめ実態調査 一昨年・昨年度・今年度との比較・分析**



1 いじめ様態の項目ごとに分析

- (1) 「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が昨年度と同様1番多い。
- (2) 「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」「ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。」などの暴力が大幅に減った。  
(令和4年度134件、令和5年度15件、令和6年度15件)
- (3) ほとんどの項目において、6月より11月、11月より2月の件数が減っている。

2 件数が減少した理由

★教員の意識が変わったと考えられる。その要因として考えられる内容は次の通りである。

- (1) 年3回のいじめ研修会の実施
- (2) WebQU 実施後の学年・分科会等の実態の報告会の実施
- (3) いじめの報告日・即日をはじめ2週間ごとにいじめ対策委員会を開いたこと

◎少しのいじめも許さないという意識が上がり、いじめに発展する前段階でいじめの芽をつむことができた。

3 継続指導の必要性

(1)～(3)までのいじめ様態についてのアンケート実施後には、実態を把握してから早急に対応を行った。しかしながら、大人の目の届かない場所でのやり取りや相手に「悪口を言っているのではないか」と思わせてしまうような数人でのこそこそ話をしている状況があったことから、学年、学級、関係している児童に対して継続して指導することを徹底して行った。

4 今後の対策

悲しい思いをする児童を減らすために、これまで以上に児童の様子を丁寧に見て気になった時には、状況を素早く調査する。全教職員が学校サポートチームや事案に応じた関係機関の役割について理解し、未然防止、早期発見、早期対応を心掛ける必要がある。

いじめ根絶に向けて、学校・保護者・地域が一体となり児童の健やかな成長のために安心して学校生活を送ることができる場所となるよう、チーム前原小で対応をしていく。